

記憶風景を縫う

第6回勉強会

震災を縫う。記憶風景を縫う。

「奇跡の一本松」で知られる陸前高田の高田松原。その風景を表現した刺しゅう作品を国内外から募り展示する「みんなのたからものししゅう高田松原プロジェクト」では、これまで730点を超える作品が集まり、全国各地で展示が行われてきました。今回の勉強会では、このプロジェクトの発起人でフリー刺繍作家としても活躍する天野寛子氏をお招きし、プロジェクトの経緯や刺繍という身近な手仕事と被災経験の関係について伺います。また、震災後に新聞の写真スクラップをもとに制作したご自身の刺繍作品「東日本大震災」シリーズについても、お話いただく予定です。

2016年11月19日(土)13:00~15:00

会場:全部・穴・会館<ホール>(仙台市青葉区大手町3-2)
仙台市営地下鉄東西線[大町西公園駅]徒歩5分

講師:天野寛子(フリー刺繍画家/昭和女子大学名誉教授)

参加費:500円(資料代+お茶付き)、予約優先

予約:メールにて氏名と人数をお知らせください。

定員:20名

天野寛子 | あまの・ひろこ

フリー刺繍画家。昭和女子大学名誉教授。家族福祉・生活文化研究所代表。1940年生。三重県出身。1963年、昭和女子大学生活科学科卒業。東日本大震災後、「みんなのたからもの」ししゅう高田松原プロジェクト主催。主な著書に『戦後日本の女性農業者の地位—男女平等の生活文化の創造へ』(ドメス出版、2001、日本生活学会今和次郎賞、山川菊栄賞受賞)、『天野寛子フリー刺繍画集—繋ぐ』(ドメス出版)などがある。

また、フリー刺繍作品「東日本大震災」シリーズは全国各地で展示開催のほか、「第8回ウラジオストク・ピエンナーレ 国際ビジュアル・アート・フェスティバル 2013」(ロシア)に出品し好評を博した。シリーズは、現在も年に一作品のペースで制作を続けている。

<http://www.k4.dion.ne.jp/~h-amano/>



Email: arpilleras@survivart.net

<https://www.facebook.com/arpilleras.jp>

主催:「記憶風景を縫う」実行委員会

共催:東北学院大学地域共生推進機構、Survivart

第7回勉強会

手仕事にみる被災の経験： インド西部地震と東日本大震災

私たちは、災害のような特別な出来事が生じた場合、その時と場所を刻みつけるような行為を行ってきました。メモリアルやモニュメントといった建造物が建てられることが挙げられますが、それらは本来多様であるはずの、ときには相対立するような記憶が、大きなストーリーに回収されたり、少数者の経験を捨象するようなかたちで建設されていることが指摘されます。今回の勉強会では手仕事でつくられた布工芸品に注目し、そこにより個人的な経験が刻印されていることについて学びます。

2016年12月17日(土)15:00~17:00

会場:bdbdbd(仙台市青葉区本町3-2-2 カワムラビル3F)
仙台市営地下鉄南北線[勾当台公園駅]徒歩3分

講師:金谷美和(国立民族学博物館外来研究員)

参加費:500円(資料代+お茶付き)、予約優先

予約:メールにて氏名と人数をお知らせください。

定員:20名

金谷美和 | かねたに・みわ

1969年奈良生まれ。京都大学人間・環境学研究科博士課程修了。人間・環境学博士。文化人類学専攻。国立民族学博物館外来研究員のほか大阪芸術大学などで教鞭をとる。主な著書に『布がつくる社会関係—インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌』(思文閣出版、2007)がある。



インド西部地震の様子を、伝統の手仕事である刺繍で表現した作品